物価の動きはどうみるの？

経済調査部　副主任エコノミスト　小池 理人（こいけ まさと）

経済状況だけで決まらない物価の動き

政府や日本銀行は、物価上昇を通じた「経済の好循環」を目指しています。これは、景気の回復により国内の経済が活発化し、賃金や物価が上昇していく状態を指します（資料1）。しかし、物価はこうした循環の中だけで決まるわけではありません。例えば、野菜などの生鮮食品は悪天候による産出量の減少により価格が上昇します。また、原油価格が産油国の政治的緊張による供給懸念の高まりから上昇することもあります。このような特殊要因によっても物価は大きく変動します（資料2）。

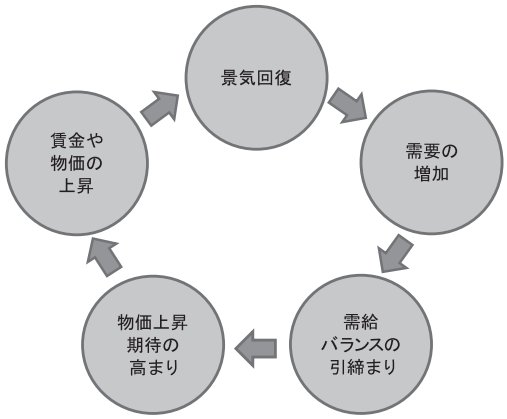
総合的な判断により基調を把握

物価の基調とは、こうした特殊な要因を除いた国内経済の実力ベースの物価を指しています。日本経済の好循環が実現しているかを測るうえでは、この実力ベースの物価の動きが重要になります。

そのため、物価の動向を把握する上で用いられる消費者物価指数では、調査項目を全て反映した総合指数だけでなく、特殊要因を除いた指標が公表されています（資料3）。ですが、物価の基調を把握するのは容易ではありません。例えば、プラスチックの価格が上昇した場合、需要の増加によって価格が上昇したのであれば「物価の基調」とすべきです。しかし、単に原料の原油価格が上がったことを反映しただけであれば「特殊要因」の性格が強いと考えられます。このように、「基調」か「特殊要因」かの判断が難しい品目が多く存在するため、一意的に「物価の基調」が決まるわけではないのです。

物価の基調を把握するために、政府、日本銀行は様々な物価統計をみていますが、いずれも完全なものではありません。そのため、様々な基準での物価統計のほか、物価以外の好循環のキーファクターである賃金や企業の感じる人手不足度合いなど、様々な指標を参考にしながら、足元の経済状況の把握を行っているのです。

資料1　経済の好循環



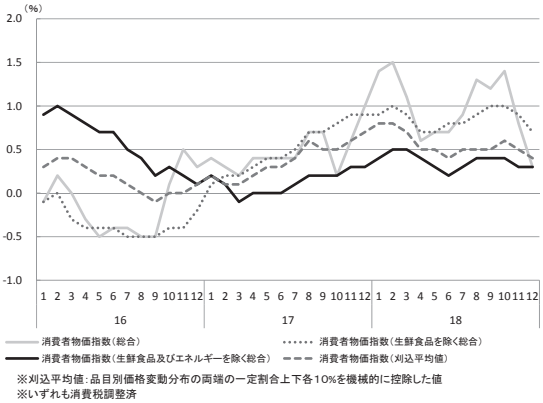
（出所）各種資料より筆者作成

資料2　消費者物価指数の変動要因

基調	国内需給	国内における需要と供給のバランスが変動することで、物価が変動する
基調	期待インフレ率	消費者や企業、市場等が予想する中長期的なインフレ率の予想が、自己実現的に物価変動に影響を及ぼす
特殊要因	資源	海外需給や国際情勢等の動きにより、物価が変動する
特殊要因	為替	為替が変動することにより、輸入品の円での購入価格が変化し、物価が変動する
特殊要因	政策	消費税率の引き上げや教育無償化といった制度変更などの要因により、物価が変動する

（出所）日本銀行資料をもとに筆者作成

資料3　消費者物価指数（全国）の推移



（出所）総務省統計局「消費者物価指数」、日本銀行